

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-01	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	ロケーション関連事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	増山	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業	（ 26年度 25年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和	平成	15 年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	映画、ドラマ、CMなどの撮影を区内に誘致し、映像を通して区のイメージアップを図る。						
対象者等	映画、ドラマ、CMなどの製作会社						
内容	ロケに関する相談受付、情報提供、区施設使用に係る連絡調整 旧道灌山中学校については耐震基準を満たしていないため、平成24年度末を以って暫定利用を終了した。						
経過	平成13年 3月 道灌山中学校廃校 9月 校舎をACCに無償貸与 平成15年 2月 ACCがロケ場所として提供（映像制作コーディネータに貸付け） 10月 ACCへの無償貸与中止、区が映像制作コーディネータに貸付け 平成17年 4月 公募により、コーディネータの選定 平成18年 6月 貸付け方法の見直し 平成19年 3月 公有財産管理運用委員会において、平成22年度まで延長決定 平成20年 6月 25年3月までの暫定利用期間の延長の方向（3ヵ年） 平成25年 3月 施設閉鎖に伴い平成24年度末を以ってロケ施設事業終了						
必要性	映像を通じた区のイメージアップ及び施設の有効活用を図ることができる。						
実施方法	（ 1直営 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,396	1,352	1,597	1,383	1,345	
決算額（26年度は見込み）		647	666	777	781	537		
人件費等		424	1,018	1,570	1,241	1,226	416	
減価償却費				1,017	1,089	1,129	169	
【事務分担当】（%）		25	30	35	35	35	5	
合計（ + + ）		1,071	1,684	3,364	3,111	2,892	585	0
特定財源	国							
	都							
	その他	3,276	3,276	3,276	3,276	3,276		
一般財源		-2,205	-1,592	88	-165	-384	585	0
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	旧道灌山中学校利用件数	58	72	62	66	77	0	0
	その他区施設でのロケ件数	36	33	44	10	13	12	12
	ロケに関する相談等受付件数	90	59	91	114	136	11	11

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
光熱水費	電気料	80						
需用費	建物修繕	0						
役務費	受水槽清掃ほか	12						
委託料	樹木選定、管理、警備	445						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	旧道灌山中学校利用件数	66	77	-	-	-	暫定利用（平成25年3月終了）
	その他の区施設でのロケ件数	10	13	12	12	12	公園の利用状況 22年度までは体育館も含む。

（問題点・課題分析）	撮影場所の問合せ等に対して、職員個人の知識経験値から回答している部分が多く、体系的な仕組みづくりを検討していく必要がある。
他区の実況	（実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区） 台東区フィルムコミッション（平成17年度～）、すみだフィルムコミッション（平成23年度～） 学校施設の提供は、台東区、豊島区が実施

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	25年度に構築した区内FCデータベースの活用と改善を重ねていく。	25年度に構築した区内FCデータベースの活用と改善、運用方法の検討を重ねていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	休止・完了	旧道灌山中学校のロケーション施設としての活用が24年度末を以って終了した。 今後は、観光情報提供事業の中で、ロケーション対応していく。

議事（要旨）	H14二定 FCの検討について H14三定 「ロケの街」として売り込むための取り組みについて H21一定 「フィルムコミッション」への取り組みについて
--------	---

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-02	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	観光情報提供事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	中嶋、三宮、増山、斉	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	観光情報提供事業					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	14年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の観光情報を区内外に広く提供することによって、区のイメージアップを図るとともに区への来訪者を増やし、地域経済の活性化を図る。						
対象者等	区外の人々及び区への来訪者						
内容	観光ガイド（イベントカレンダー）作成（14年度～）、H22、23英語版 HPに区内行事のインターネット動画配信（14年度～） HPに都電荒川線花見どころサイトの開設（14年度～） まちあるきマップ作成（17年度 日暮里・南千住、18年度 都電荒川線沿線、19年度 日暮里・南千住改訂、20年度 都電荒川線沿線に舍人ライナーを含め改訂、21年度 日暮里・南千住改訂、日暮里・谷中マップ作成、22年度 都電舍人ライナー沿線、23年度 日暮里改訂、千住散策マップ作成、日暮里・谷中増刷改訂、24年度 南千住改訂）、観光PR協力所設置79か所（H26.5.31現在）、都電荒川線散策マップ（19年度）、行政観光パンフレット作成（20年度作成、23年度改訂）、観光スポット特集冊子の作成（20年度）、区HPのトップページに観光情報バナー開設（21年度）、奥の細道バナー開設（25年度）、都電関連バナー開設（23年度）、京成日暮里駅構内PRコーナー運営（24年度～ 掲示板2か所、ラック1台）、イメージポスター作成（24年度）、ツイッター開始（24年度）、日暮里駅前イベント広場電光掲示板情報更新（25年度～）						
経過	平成22年度から観光ボランティアガイド事業を受入体制整備事業へ移管した。 区内行事のインターネット動画配信 18年度から9件（都電荒川線のバラ、素盞雄神社天王祭、諏訪神社御神幸祭、胡録神社例大祭、尾久八幡神社例大祭、仲町通り阿波踊り大会、元三島神社神幸祭、熊野前サンバカーニバル）を常時配信していたが、21年度に主要5イベントに一本化（ダイジェスト版を作成）した。						
必要性	多様な情報発信により区のイメージアップ及び来訪者の増加を図ることができる。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		10,000	5,681	6,984	4,155	2,226	1,237
決算額（26年度は見込み）		6,411	4,738	3,590	3,475	1,485	862	1,849
人件費等		11,255	9,895	11,476	7,622	6,196	6,111	
減価償却費				3,922	2,799	2,420	2,704	
【事務分担量】（%）		140	125	135	90	75	80	
合計（+ +）		17,666	14,633	18,988	13,896	10,101	9,677	1,849
特定財源	国							
	都							
	その他			184	341			
一般財源		17,666	14,633	18,804	13,555	10,101	9,677	1,849
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	観光ガイド（イベントカレンダー）	20,000	32,000	33,000	33,000	30,000	30,000	30,000
	まちあるきマップ（区単独）	68,000	160,000	92,000	118,000	118,000	-	100,000
	まちあるきマップ（他区連携）	-	150,000	7,000	150,000	-	67,000	-
	観光PR協力所設置件数（延べ）	51	64	66	67	74	79	80

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	パンフレットスタンド購入等	94	委託料	まちあるきマップほか	820	委託料	まちあるきマップほか	1,669
役務費			需用費	観光振興ポスター	42	需用費	観光PRチラシほか	180
委託料	まちあるきマップほか	1,391						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	観光PR協力所の設置件数（延べ件数）	67	74	79	80	85	

（問題点・課題分析）	<p>区への来訪者を増やすためには区外への情報発信が不可欠となるが、そのためには、新たなツールを積極的に開拓していく必要がある。</p> <p>時期によって掲示するものがなく空きスペースのできる京成日暮里駅構内に設置している掲示板を有効活用すること。</p>
	<p>（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
新たな情報発信ツールを開拓し、積極的な情報発信に努める。	外国人向け観光情報サイトの構築など情報発信手段の拡大に努める。
マスコミ等とのつながりを深め、情報の露出度をより一層高める。	マスコミ等に対し、積極的に情報を提供していくことで、情報の露出度を高める。
他部署からの京成日暮里駅構内掲示板への掲示依頼を受けるため、掲示板の使用方法を定め各部署に周知する。	前年度の反省点をふまえた上で運用を続け、常に掲示板での情報発信を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	観光情報の発信は、来訪者の増加を図るために欠かすことが出来ない。

議 会 要 質 問 状	H16一定	観光振興に学芸員を活用して。	H16三定	観光組織づくり。観光スポットを売り込む。
	H16三定	コリアタウンを情報発信すべきである。	H16四定	観光が1つ養成講座を開設。菓子問屋ミュージアムの開設。
	H18三定	観光マップの活用を図るため、協力店を募集し、		配布拡大を図るべきである。
	H18四定	日暮里、三河島の再開発ビルに「観光案内ステーション」を設置し、		観光スポットを発信する。
	H24一定	日暮里駅周辺において、地元と協力して情報発信を進めるべき。		

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-03	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川区観光大使PR事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	三宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-02	荒川区観光大使PR事業					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	18年度	根拠法令等	荒川区観光大使設置要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	<ul style="list-style-type: none"> 「荒川区観光大使」によるPR活動により区のイメージアップを図る。 区内小中学生が「あらかわ魅力伝え隊」として区のPR活動を行うことで、郷土意識の醸成を図る。 区の観光情報を区外に発信する意志のある個人や企業を観光PRサポーターとし、草の根的なPR活動を展開していくことで、荒川区への誘客を図る。 						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> 荒川区在住又は出身者で、区に愛着を持ち、区の魅力を積極的に紹介していただける著名人 区内小中学生 荒川区観光公式twitterのフォロワー 						
内容	<p>（観光大使） 城戸真亜子（洋画家）、三遊亭好楽（落語家）、井崎脩五郎（競馬評論家・タレント）、片岡鶴太郎（俳優・画家）の4名 区の最新情報（旬な話題、観光イベント情報、観光パンフ等）を随時提供。 観光大使用PR物品を作成し、それぞれの立場において機会のあるごとに荒川区をPRしてもらう（名刺、都電荒川線ポストカード、産業振興課シンボルキャラクター「わざ丸」の携帯ストラップ等）、区長と観光大使との対談を実施し、対談内容をケーブルテレビやホームページ等で情報発信する。 （あらかわの魅力伝え隊） 区内小中学生が、観光大使の補助的役割を担い、区外児童と交流する場で、名刺や観光パンフレットを配布。</p>						
経過	平成19年度 観光大使が区の魅力を紹介する「私の大好きなまち」作成(23年度改定) 平成20年度 「あらかわの魅力伝え隊」を試行実施（平成21年度～本格実施） 平成24年度 荒川区観光公式twitterの試験運用開始 平成25年度 荒川区観光公式twitterの本格運用開始 平成26年度 事業の方向性の検討						
必要性	著名人の協力による幅広い人脈やネットワークを活かし、区の知名度及びイメージの向上を効果的に図ることができる。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	686	318	315	586	638	236	216	
決算額（26年度は見込み）	343	225	85	292	353	10	216	
人件費等	1,694	1,221	1,308	2,541	826	2,079		
減価償却費			436	933	323	845		
【事務分担量】（%）	20	15	15	30	10	25		
合計（+ +）	2,037	1,446	1,829	3,766	1,502	2,934	216	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	2,037	1,446	1,829	3,766	1,502	2,934	216	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
観光大使任命(人)	0	0	0	0	0	0	0	
区長との対談(回)	0	1	1	0	0	1	1	
PR活動(名刺、ストラップ等)	1,300	300	-	10,000	2,500	-	2,000	
あらかわの魅力伝え隊	2	1	1	0	0	0	0	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
需用費	大使PR物品等	353	需用費	消耗品、大使図書購入	10	需用費	観光大使PR消耗品ほか	198
			使用料等		0	使用料等	会食会場使用料	18
使用料賃借料								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	観光公式twitterフォロワー数	-	250	734	1,000	2,000	
	観光PRサポーター数	-	-	-	0	0	事業の凍結を検討
	魅力伝え隊活動実績（回）	0	0	0	0	0	学校による他自治体との交流の場の回数

（問題点・課題分析）	観光twitterを有効に活用し、旬な情報を効率的・効果的に発信・拡散できるような仕組みが求められる。ツイッターを活用した今後の取組については、ソーシャルメディアを使用した双方向的なやりとりについて課題もあり、関係課と調整し、検討を進める。
他区の実況	（実施 7 区 未実施 15 区 不明 0 区） 中央区（ミス中央）3人、台東区（たいとう観光大使）25人、豊島区（ソメイヨシノ桜の観光大使）3人、大田区（来ーる大田区大使）10人、北区（北区アンバサダー）6人、品川区（観光大使）5人、墨田区（すみだ親善大使）3人

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	観光twitterを有効に活用し、旬な情報を効率的、効果的に発信、拡散できる仕組みを構築する。	引き続き観光twitterを有効に活用し、旬な情報をより効率的、効果的に発信、拡散できる仕組みを構築する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	引き続き、観光大使のPR力の活用とあらみいtwitterによる観光情報の発信を進めていく。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-04	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	産業観光推進事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井		
		担当者名	中嶋	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-02-01	産業観光推進事業				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成 14 年度		根拠				
終期設定	有 無 年度		法令等				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画		
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	荒川区の産業技術や伝統工芸技術、区内で製造・販売されている優れた商品の紹介とPR、そしてモノづくり見学・体験スポットを通じて、モノづくりの街荒川のイメージアップと産業観光を推進する。						
対象者等	商品の製造、販売事業者 区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>観光PRコーナーの設置（おすすめ品の販売等）・25年度実績 あらかわの伝統技術展、荒川区産業展*、TCCK大井競馬場*、つくば市産業展*、路面電車の日*、都電荒川線の日*、バラの市、まるごとバザールin大垣*、都庁観光情報センターPRコーナー（伝統工芸、マイスターの実演）*、モノスポ2013*、隅田川駅貨物フェスティバル*、大垣春の芭蕉祭り（大垣）*、芭蕉楽市（大垣）*、釜石冬の味覚祭り（釜石）* *はブランドの物販あり 「荒川ブランド」商品を紹介する冊子の作成・配布 平成17年度 荒川のおすすめ品 区民が選んだおみやげ編Part 1（33商品）、平成18年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編（伝統工芸品47商品、荒川マイスター製品17商品）（計64商品） 平成25年度 伝統工芸品、荒川マイスター製品編改訂（伝統工芸品42商品、荒川マイスター製品17商品）（計59商品） 20年度、22年度にも改訂あり</p>						
経過	<p>平成19年度 モノづくり見学・体験スポット整備支援事業開始[「モノづくり」工房やギャラリー等を 一般公開する者に対し、スポットとして認定する。必要に応じ改修等の費用を補助2/3補助(100万円上限)うち、1/2は都補助あり]、[19年度2件、20年度6件、21年度4件(計)12件、22年度3件(計14件) 1件廃止あり、23年度3件(計16件) 1件辞退あり、24年度1件計17件、25年度7件(23件)] 平成20年度 都電ウォークラリーは分離し、単独事業へ。 荒川ブランドセールスプロモーション事業を統合した。 伝統技術展は経営支援課へ移行した。 平成23年度 「駅からハイキング関連事業補助」経費を観光イベント助成へ組み替え</p>						
必要性	モノづくりの街荒川の地域資源を活かし産業観光を推進することは、地域の産業活性化に資するところが大きい。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	9,552	8,179	8,321	5,551	5,422	5,010	4,776	
決算額（26年度は見込み）	7,521	3,475	3,324	3,328	2,683	4,393	4,776	
人件費等	5,929	5,700	7,848	8,046	9,913	6,238		
減価償却費			2,615	2,955	3,872	2,535		
【事務分担量】（%）	70	70	90	95	120	75		
合計（+ +）	13,450	9,175	13,787	14,329	16,468	13,166	4,776	
特定財源	国							
	都	2,516	888	672	856	823		
一般財源	10,934	8,287	13,115	13,473	15,645	13,166	4,776	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	PR事業（回）	11	12	15	13	15	14	19
	内、ブランドPRイベント(回)	8	8	10	9	11	12	13
	商品紹介冊子作成（部）	20,000	-	25,000	-	-	25,000	-
	モノづくり見学体験スポット	6	4	3	3	1	7	3

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	審査委員謝礼等	160	報償費	審査員謝礼等	89	報償費	審査員謝礼等	68
一般需用費	荒川ブランドPR	10	一般需用費	荒川ブランドPR	94	一般需用費	荒川ブランドPR	50
旅費	大垣	78	旅費	大垣	72	旅費	釜石	86
委託料	イベントPR設営等	1,904	委託料	イベントPR設営等	2,797	委託料	イベントPR設営等	2,166
使用料	荒川ブランドPR	322	使用料	荒川ブランドPR	336	使用料	荒川ブランドPR	406
負担金	スポット補助金	122	負担金	スポット補助金	1,005	負担金	スポット補助金	2,000
償還金	都補助返還金	87						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	イベント会場での実演・展示実施 件数	13	15	14	14	19	
	モノづくり見学・体験スポットの 件数	16	17	23	26	29	数値は累計

（問題点・課題 分析）	<p>現在23箇所の「モノづくりスポット」の年間来訪者数は約2,600人である。来訪者が0名の店舗と400名以上の店舗とがあり差が大きいこと、スポット全体の来訪人数を増やすことが課題である。</p> <p>「あらかわモノスポ」や「都庁PR」など事業者が一堂に介するPRイベントを区外にて行っており一定の効果あげているが、来場者がイベント終了後に区内の店舗を訪れるような取り組みを行うことが課題である。</p>
他区の実 状況	<p>（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区）</p> <p>東京都産業を活かした観光ルート整備支援事業活用区 台東区（中小製造業アトリエ化支援事業）、豊島区（伝統工芸を巡る小路案内事業）、墨田区（3M運動ガイドマップ）、板橋区（産業観光整備事業）、江東区（ものづくりマップ作成）</p>

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
モノづくりスポットに認定されている各事業者へ聞き取り調査を行い、事業者と共に改善策を検討する。	新たな切り口(例えば親子連れを対象)のイベントを開催するなど、より一層のPRを行う。
「あらかわモノスポ」「都庁PR」にて来場者を区内へ誘導する仕掛けを実施する。	前年度の反省点を生かし、さらに工夫を重ねる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	重点的に推進	モノづくり見学・体験スポットの新規開拓及び更なる周知を図るとともにスポット数も増加したことから、回遊性をもたせるなど一層事業を推進する。

議 会 要 旨 問 状	H17二定 産業観光の視点で、姉妹友好都市交流をするべき。
----------------------------	-------------------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-05	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	観光イベント助成		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	山岸、中嶋、三宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-01	川の手荒川まつり事業					
	01-03-02	観光イベント助成					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	62年度	根拠	川の手荒川まつり実行委員会実施事業補助金交付要綱、荒川区観光振興事業補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	区民の開催する観光事業を支援し、区民とともに観光資源を育成する。						
対象者等	区民主体の民間団体						
内容	<p>1 川の手荒川まつり実行委員会補助 平成22年度(南千住野球場)8,191千円、平成23年度(東尾久運動場)62千円(中止)、平成24年度(東尾久運動場)9,197千円、平成25年度(荒川遊園運動場)9,025千円</p> <p>2 観光振興事業補助 ・平成24年度 7件 1,283千円(日暮里電車まつり987千円、富士見坂ライブ*カフェ設置50千円、オムツサリ鑑賞会50千円、スイーツコレクション47千円、秋の鳴く虫鑑賞会50千円、ハウイン50千円、富士見坂写真展49千円) ・平成25年度 3件 856千円(日暮里電車まつり789千円、秋の鳴く虫の声鑑賞会50千円、日暮里富士見坂写真展17千円)</p> <p>3 隅田川花火大会実行委員会への負担金 ・平成24年度 50万円(オブザーバ参加) ・平成25年度 150万円(実行委員会負担金)</p>						
経過	<p>川の手荒川まつり 昭和62年以来、(計5回を除き)毎年4月29日(祝)に実施。17年の実行委員会において開催場所を南千住野球場、東尾久運動場、荒川遊園運動場、汐入公園で毎年開催することをルール化した。 平成23年度 ・「駅からハイキング関連事業補助」経費を産業観光推進事業から組み替え。 ・「シダレザクラ祭り補助金」が公園緑地課に移管。 駅からハイキングにおける商店街PRのための補助 多数の外客が見込めるイベント等において、下町商店街の魅力を伝え、再訪を促す取り組みとして平成20年度より実施していたが、平成25年度よりJRによる実施方法が変更となった(駅ポ：スマホのGPS機能を使った通年のまちあるきへ移行)ため、補助を廃止した。</p>						
必要性	区民・地域団体等が実施するイベントを支援することで、より多くの集客の機会を創出することが出来る。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		12,688	12,340	12,310	10,407	12,325	14,124
決算額(26年度は見込み)		11,490	11,845	11,218	1,775	12,076	12,802	11,170
人件費等		10,049	9,798	11,737	9,287	7,977	10,125	
減価償却費				4,503	4,043	3,550	4,225	
【事務分担量】(%)		140	145	155	130	110	125	
合計(+ +)		21,539	21,643	27,458	15,105	23,603	27,152	11,170
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		21,539	21,643	27,458	15,105	23,603	27,152	11,170
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	シダレザクラ祭り参加者(人)	7,000	8,500	10,000	-	9,200	-	9,000
	事業補助金(日暮里イベント含む)	5	5	3	6	7	3	8
	川の手荒川まつり来場者(人)	60,000	60,000	60,000	-	70,000	70,000	72,000
	川の手荒川まつり参加団体	139	147	146	-	140	132	137

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
補助金	事業補助金	296	負担金補助等	川の手まつり補助金	9,024	負担金補助等	川の手まつり補助金	8,710
	駅ハイ補助金	143	負担金補助等	事業補助金	2,356	負担金補助等	観光振興事業補助金	1,650
	川の手まつり補助金	9,197	賃金	臨時職員	558	賃金	臨時職員	576
	日暮里イベント	987	委託料	隅田川花火廃棄物処理等	546	職員手当等	時間外手当	234
	隅田川花火大会	500	職員手当等	時間外手当	223			
一般資金	臨時職員	554	需用費	隅田川花火消耗品	96			
時間外手当	時間外手当	398	職員手当等		0			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	観光事業補助金申請件数	6	7	3	8	8	日暮里イベントを含む
	川の手荒川まつり来場者数(千人)	-	70	70	72	72	

（問題点・課題分析）	川の手荒川まつりについて、現在4会場にて毎年ローテーション開催しているが、安全面の問題や出店ブース等の確保が困難な会場もあるため、今後見直しが必要である。 隅田川花火大会については、区内の観覧場所となる汐入地域において、実行委員会として関係機関と調整し安全対策を万全に図らねばならない。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
会場の決定及び実施方法については見直しを行う。	まつりを円滑かつ効率的に実施するため、会場や実施方法等について見直しの検討を行う。
汐入地域における観覧者の安全対策を一層進め、警察消防と連携し、警備体制を構築する。	汐入地域における観覧者の安全対策を引き続き進めるとともに、地元商店街の活性化に結び付くような取り組みを行っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	重点的に推進	区民・事業者の自主的活動こそが、観光振興による地域活性化を図る上で欠かせないものであり、より一層支援を進めていく。

議（要質問状）	H16一定 沿線商店街と連携した都電乗客サービスの提供と路面電車サミットの開催について H14三定 都電沿線の文化祭における区及び地元商店街の関わり方について H17二定 日暮里・舎人線の開通に合わせて、イベントを開催してはどうか。
---------	--

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	勉強会謝礼	23	旅費		0	報償費	懇談会委員謝礼等	125
旅費			使用料等		0	需用費	懇談会賄い等	44
食糧費			需用費		0	役務費	懇談会議事録反訳	36
一般需用費			役務費		0	旅費	懇談会費用弁償	9
役務費			報償費		0	使用料等	懇談会会場使用料	8
使用料								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	懇談会の開催(回)	-	-	-	1	1	
	研究会の開催(回)	-	1	-	1	1	

問題点・課題 (指標分析)	前回の懇談会報告書のとりまとめより7年余りが経過し、観光を取り巻く世の中の動きや環境が著しく変化している。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催、誘客のための新たな観光施策を展開していく必要がある。
	(実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
懇談会や研究会を通じ、外部有識者からの意見・助言等を施策の実現へ活かしていく。	荒川区の現状の課題やこれからのあり方など、テーマを絞った懇談会や研究会を開き、その助言・提言をもとに施策を展開していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	有識者からの視点をより実践的・具体的に施策に反映していくため、懇談会等の提言を今後の計画づくりに活用する。

議 会 要 旨 状	
-----------------------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-07	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	都電荒川線活用事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	三宮	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-02-02	都電荒川線活用事業					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠			
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	区の観光資源である都電荒川線を活用し、区外からの観光客を呼び込む。区内商店街や都電沿線区（北区、豊島区、新宿区）、東京都（交通局）と連携したイベント等の実施や、特別号の運行により、一層の知名度及びイメージの向上を図る。						
対象者等	区民、区外の人々及び来訪者						
内容	<p>【都電荒川線沿線4区地域活性化協議会事業】（平成24年度に協議会設立）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線絵画コンテスト(23、24年度) ・都電荒川線沿線スタンプラリー(25年度～) <p>平成25年実績：9月14日（土）～10月27日（日）に実施、賞品応募者数1,337人</p> <p>【都電特別号の運行】</p> <p>都電バラ号(5月) 平成24年度～、都電八口ウィン号(10月) 平成24年度～、都電さくら号(3～4月) 平成24年度～</p>						
経過	<p>平成19年度 「都電荒川線ウォークラリー」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線をPRするとともに、沿線の魅力を多くの人に伝えるため、北区との共催により実施。 <p>平成23年度 「都電荒川線100周年記念事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒川区主催事業：都電100周年荒川区観光ツアー、都電100周年企画展（ふるさと文化館）など ・記念事業実行委員会主催事業（荒川区、北区、豊島区、新宿区及び都交通局）：都電サミット、都電荒川線沿線絵画コンテスト、花電車の運行、特設HP開設 <p>平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会が主催し、「都電荒川線スタンプラリー」を実施 <p>これにより、「都電荒川線ウォークラリー」はスタンプラリーへ移行</p>						
必要性	区の観光資源である都電荒川線を中心としたイベント開催や話題づくりにより、区のイメージアップ・PRにとどまらず商店街の活性化に寄与するところは大きいと考える。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,087	1,113	1,205	1,935	1,413	502
決算額（26年度は見込み）		876	971	802	1,726	919	74	190
人件費等		2,965	2,850	3,052	5,505	4,131	1,663	
減価償却費				1,017	2,022	1,614	676	
【事務分担量】（%）		35	35	35	65	50	20	
合計（+ +）		3,841	3,821	4,871	9,253	6,664	2,413	190
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源	3,841	3,821	4,871	9,253	6,664	2,413	190
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	都電荒川線沿線ウォークラリー（参加者数）	1,250	1,301	306	1,774	1,713	-	-
	都電沿線絵画コンテスト（応募数）	-	-	-	658	343	-	-
	都電荒川線沿線スタンプラリー（参加者数）	-	-	-	-	-	1,377	1,500

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	参加記念品ほか	240	需用費	スタンプラリー賞品	74	需用費	スタンプラリー賞品	190
			負担金補助等	特別号装飾品	0	負担金補助等	特別号装飾品	0
委託料	会場設営、台紙・ポスター印刷	649	委託料		0	委託料		0
使用貸	コンテスト入賞作展示	30						
負担金補助								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	都電荒川線沿線ウォークラリー参加者数（人）	1,774	1,713	-	-	-	22年度は荒天のため時間短縮
	都電荒川線沿線スタンプラリー（人）	-	-	1,377	1,500	1,500	賞品応募者数

（問題点・課題分析）	<p>都電沿線の活性化については、沿線3区及び交通局と連携して進めていく必要がある。 パラ・あらかわ遊園等沿線の魅力を都電と関連付け、より「都電の走るまちあらかわ」のイメージを作り、発信する必要がある。</p>
	<p>（実施 3 区 未実施 19 区 不明 0 区） ・都電荒川線沿線4区地域活性化協議会に加入</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。	沿線4区連携によるスタンプラリーについて、25年度及び26年度の実施結果等を踏まえレベルアップ及び定着を図っていく。
	平成26年度は「荒川線」となって、40周年であることから、記念した特別号の運行等を実施し、区内外にPRして、集客のきっかけとする。	あらゆる機会をとらえ、新たな企画を立ち上げるなど、沿線の活性化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区内はもとより、今後も沿線3区及び東京都交通局と連携して、都電荒川線沿線地域全体の活性化を図っていく。

議（要質問）	<p>H18一定 観光産業振興を図るため、花電車を走らせたらかうか。 H18四定 都電を活用し、荒川区の観光振興を図るべきである。 H24三定 都電を活用した地域や交通局、沿線4区との連携等。</p>
--------	--

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-08	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	受入体制整備事業		部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井	
			担当者名	吉野、大和田、斉	内線	461	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-02-03	受入体制整備事業					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠法令等	荒川区外国人来訪者受入体制整備支援事業補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	観光客の多様なニーズに対応できる受入環境の整備促進のため、外国人旅行者にも配慮した外国語（英語、中国語、ハングル）標記の観光案内標識を整備するとともに、観光ボランティアガイドによる案内を促進させることにより、来訪者の受入体制の充実を図る。						
対象者等	区民及び観光客、区内の宿泊施設						
内容	<p>【観光案内標識設置事業】東京都観光案内標識設置補助金交付要綱に基づく補助事業 17年度 日暮里地区 4基設置 18年度 南千住地区 5基設置 19年度 都電川線沿線 5基設置 20年度 汐入地区 5基設置 以後、毎年度日暮里地区から順番に改訂、標識清掃の開始 22年度 三ノ輪停留場標識を都から移管</p> <p>【外国人来訪者受入体制整備支援事業】（平成20年度～） 区内の宿泊施設を営む事業者が外国語版のホームページ、パンフレットを新規に作成する場合の初期経費の一部（3分の2 上限20万円）を補助 （助成件数：20年度2件、21年度1件、22年度1件、23年度1件、24年度0件、25年度0件）</p> <p>【観光ボランティアガイド】養成講座の実施（平成18年度～）、ガイドの活動（平成18年度～） H21全10回6人登録、H22全10回16人登録、H23全10回8人登録、H24全8回10人登録、H25全8回10人登録。 ガイド登録者数：107名（延べ人数） 現在登録者数：64名（うち休会者4名）</p>						
経過	観光案内標識設置事業：平成17年度事業開始（04-03-08観光案内標識設置事業から組み替え） 外国人来訪者受入体制整備支援事業：平成20年度事業開始 観光ボランティアガイド事業：平成22年度から観光情報提供事業より移管						
必要性	多言語の観光ボランティアガイドによる案内や標識等の整備を進めることは、来訪客の満足度を高め、リピーターとしての来訪増加が期待出来る。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	10,005	2,262	2,868	1,721	1,753	1,054	1,848	
決算額（26年度は見込み）	6,635	1,540	1,890	819	592	735	1,848	
人件費等	5,082	3,257	3,924	5,928	7,022	7,069		
減価償却費			1,307	2,177	2,743	2,873		
【事務分担量】（%）	60	40	45	70	85	85		
合計（+ +）	11,717	4,797	7,121	8,924	10,357	10,677	1,848	
特定財源								
国								
都	6,238							
その他								
一般財源	5,479	4,797	7,121	8,924	10,357	10,677	1,848	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	観光案内標識設置	5	-	-	-	-	-	-
	観光案内標識内容更新・修正	-	4	5	5	6	5	5
	外国語版HP作成支援	2	1	1	1	0	0	2
	ガイド活動	9	16	23	26	25	29	32

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	ガイド養成講座謝礼	32	委託料	ガイド養成講座謝礼	563	委託料	観光案内標識修正委託	1,202
需用費	ガイド消耗品等	71	需用費	ガイド消耗品等	114	負担金補助等	外国人受入支援補助金	400
役務費	ガイドボランティア保険等	23	役務費	ボランティアガイド保険	30	需用費	ガイド消耗品等	151
委託料	標識更新委託	231	報償費	標識更新委託	29	報償費	ガイド養成講座謝礼	61
	標識清掃委託	235	負担金補助等	標識清掃委託	0	役務費	ボランティアガイド保険等保険料	34
補助金	外国語版HP作成支援	0		外国語版HP作成支援				

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	設置標識数(基)	19	19	19	19	19	数値は累計
標	外国語版HP等作成支援(件)	5	5	5	7	7	数値は累計
	観光ボランティアガイドの活動 (回)	26	25	29	32	35	来訪者からの依頼に基づく活動数

問題点・課題 (指標分析)	ものづくりスポットを取り入れるなど、新たな魅力あるコース開発が必要である。 観光ボランティアガイドの資質をさらに向上させ、活動できる人数を増やすことが必要である。 依頼数を増やすため、ガイドについて区内外にPRする必要がある。 受入体制整備支援事業の助成対象について、宿泊施設だけでなく飲食店にまで拡大し、区内の外国人旅行者の受入体制整備を支援していく必要がある。
	（実施 15 区 未実施 0 区 不明 7 区） 観光案内標識...台東区、豊島区、中央区、葛飾区、千代田区、足立区他
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
観光ボランティアガイドのPR方法について新たな方法を開拓し、一層の周知に努める。	他自治体のイベント等に出向いてPRチラシを配布したり、名刺を渡すなど積極的に周知活動を行う。
ボランティアガイドのスキルアップ研修会については、新たなメニューの追加も含め、今後も必要なものについて随時実施していく。	区内の観光資源については定期的に自主的な学習会を開くほか、新たな分野にも魅力を発掘し、ガイドとしての知識を深める。また、新コースの開発を行う。
受入体制整備支援事業については、助成対象及び助成事業について見直し、対象者を増やし、区の受入体制を整備していく。	対象者、対象事業について現況調査を行い、ニーズにこたえる支援体制を構築する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	引き続き観光ボランティアガイドの養成とさらなる資質の向上を図る。

議会議事録 (要旨)	H20三定 外国人観光客誘致に向け、観光案内所を日暮里駅周辺へ設置すべき。
---------------	---------------------------------------

事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	05-04-09	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	奥の細道千住あらかわサミット事業	部課名	産業経済部観光振興課	課長名	谷井		
		担当者名	大和田	内線	461		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-05-01	奥の細道サミット事業費				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	25年度	根拠			
終期設定	有	無	26年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	産業革新都市					
	政策	06	人が集う魅力あるまちの形成				
	施策	06-01	観光による地域活性化の推進				
目的	奥の細道旅立ちの地である千住をPRし、観光及び地域振興を図るため、平成26年度に「第27回 奥の細道 千住あらかわサミット」及びその関連事業を実施する。						
対象者等	<ul style="list-style-type: none"> ・区民及び来街者 ・奥の細道サミット参加自治体関係者 						
内容	<p>芭蕉翁の業績を顕彰するとともに地域の活性化に結びつく活動と郷土の歴史文化の活用を互いに連携し、広く内外に展開するため、毎年、加盟団体により、サミット総会を開催している。26年度は第27回サミットを荒川区で開催する。[サミット概要]平成27年3月14日(理事会、総会、交流会)、15日(エクスカージョン/区内奥の細道ゆかりのスポット及び産業展)</p> <p>[関連事業概要]</p> <p>旅立ちの日記念バスツアー(平成26年5月16日、募集人数30名、参加人数22名)、 矢立初めの地・フォト俳句コンテスト(平成26年7月～11月予定)、 パネル展「俳句を探ねる小さな旅」(平成26年7月中旬～8月中旬)、 千住まちあるきツアー(平成26年10月10、17、29日の3日間、募集人数各50名)、 記念モニュメントの設置(設置時期：平成27年2月予定)、 俳句宣言発表、記念講演会、フォト俳句コンテスト表彰式、子ども俳句相撲大会(平成27年3月14日、日暮里サニーホール、募集人数500名程度)、 奥の細道展(仮)(平成27年2月中旬～3月中旬)、 奥の細道関連事業の実施に対する補助(補助率等1/2、上限額5万円)</p>						
経過	<p>「奥の細道サミット」は、奥の細道紀行300年を契機として、奥の細道ゆかりの市町村等が芭蕉翁の業績をより一層顕彰することなどを目的として昭和63年に発足した。加盟団体は(平成26年6月1日現在 37団体)</p> <p>荒川区は平成19年度から参加しており、また、旅立ちの地・千住をより広く区内外に紹介するため、開催地として立候補し、平成24年こまつサミット総会において平成26年度の開催地として承認された。</p> <p>これに伴い、平成25年度は、プレイベント実行委員会を立ち上げ、サミット開催に向けた各種プレイベントを実施した。</p> <p>[プレイベントの内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念講演会(金子兜太氏、城戸真亜子氏)、千住まちあるきツアー(平成25年10月17、30日)、パネル展 <p>[最近のサミット開催状況]</p> <p>平成24年度 石川県小松市(平成24年9月29、30日開催)</p> <p>平成25年度 宮城県岩沼市(平成25年6月20、20日開催)</p> <p>平成27年度 鹿沼市 平成28年度 大垣市予定</p>						
必要性	本サミットを荒川区で開催することで、南千住を奥の細道旅立ち初めの地として観光資源化していくための対外的な一層のPRと、地元の盛り上げりの双方において大きな効果が期待できる。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 実行委員会に対する補助(5,455千円)、区直接執行分(2,618千円)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)								
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度		
予算額						4,477	8,045		
決算額(26年度は見込み)						4,187	8,045		
人件費等						7,901			
減価償却費						3,211			
【事務分担当】(%)						95			
合計(+ +)	0	0	0	0	0	15,299	8,045		
特定財源						0	0		
国									
都						1,745	3,250		
その他						0	0		
一般財源	0	0	0	0	0	13,554	4,795		
実績の推移	事項名		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	サミット加入団体数		-	-	-	-	-	37	38
	サミット関連イベント実施数		-	-	-	-	-	3	8

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費			報償費	東西俳句相撲大会視察者報償	35	報償費	サミット参加自治体出展報償	87
役務費			旅費	サミット参加旅費	160	旅費	サミット参加自治体視察	383
委託料			役務費	-	0	需用費	サミット周知シール作成	144
補助金			委託料	-	0	委託料	イベント展示パネル作成	121
			負担金補助等	サミット実行委員会補助	3,992	工事請負費	記念碑設置費	500
						備品購入費	サミット開催記念碑	1,054
						負担金補助等	サミット実行委員会補助	5,756

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	奥の細道サミット関連イベント数			3	8	5	まちあるきイベント、企画展など

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> ・本サミットを契機とし、南千住を奥の細道矢立初めの地として観光資源化していくためには、地域全体として松尾芭蕉・奥の細道を盛り上げ、さらには俳句文化を一層区民に広めることが求められる。 ・区内には、日暮里など俳句ゆかりの地があることから、俳句文化の振興によるまちの魅力発信を地域の観光関係団体・文化団体や地域文化スポーツ部、教育委員会などと連携して進めていく必要がある。
	他区の実況 （実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 「奥の細道サミット」加入団体は、23区では当区のほか江東区、足立区の2区。

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
関連団体などにおける奥の細道関連イベント等の実施を促進していく。	関連団体と連携し、引き続き関連イベントを実施していくとともに誘客のための新たな設備等の充実を図っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
重点的に推進	推進	サミット開催を契機として俳句文化の振興とともに、「俳句のまち」、「奥の細道矢立初めの地」を活用した地域振興、観光振興を図っていく。

況議 （要 質 問 状）	H25一定 「奥の細道旅立ちの地」という重要な地域資源を活かした観光振興を推進すべき（菅谷）
--------------------------	--

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
						委託料	会場設営委託等	1,327
						需用費	クイズラリー景品等	200
						役務費	イベント保険	26
						使用料等	公園占有料	10

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	汐入水辺フェスタ来場者	-	-	-			

問題点・課題 (指標分析)	水辺空間を活用した賑わいづくりを創出するためには、他課と連携の上、魅力あるイベントを継続して実施していくとともに東京都や隅田川沿川の近隣区、団体等とも連携して進めていく必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 23年4月に中央区、台東区、墨田区、江東区の4区が隅田川ルネサンス推進協議会へ参加
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	他課と連携のうえ、汐入水辺フェスタを開催する。	他課と連携のうえ、汐入水辺フェスタを開催し、誘客を促進していく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	地域資源の一つである「水辺空間」を活用し、誘客の促進を図るため、東京都、隅田川沿岸区や関係団体と連携して、隅田川の魅力発信を推進していく。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--